

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 学校教育目標と目指す子ども像

=学校教育目標=

「心豊かに未来社会を創造する琴似の子どもの育成」

=目指す子ども像=

- 美しいものに感動する情操豊かな子ども 【明るい子】 あいさつ
- 創造性に富み、個性豊かな子ども 【考える子】 学び合い
- 働くことに喜びを感じる子ども 【がんばる子】 チャレンジ
- 思いやりと協力の心をもつ子ども 【助け合う子】 思いやり

2 今年度の学校経営の重点目標

「よさ」と「優しさ」、「笑顔」かがやく琴似小学校

3 重点目標の具現化に対する自己評価及び自己評価結果に対する学校関係者評価

学ぶ力の育成 個に応じた「分かる・できる・楽しい」授業づくり(主体的、対話的で深い学びの実現)

重点目標具現化推進項目 (評価内容)	自己評価		学校関係者評価	
	達成 状況	改善の方策	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
①学校は、個に応じた「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行うことができたか。	A	昨年度からの方向は継続し、「関わり合いの中で、主体的に学ぶ子の育成」を主題とした授業づくりを推進した。今年度は「問い＝問題意識を生む手立て」に焦点化し、全学級で公開授業を行い、教職員同士で学び合う機会をもつことができた。教職員・保護者ともに肯定的な回答が多いため方針は変えずに進めていきたい。	A	A
②学校は、子どもが安心して学ぶことができる学級経営を行うことができたか。	A	全教職員で「一人一人の子どもが『自分が大切にされている』と実感できる指導」を心掛けることで、一人一人のよさを認め合い、共に成長しようとする優しさをもつ子どもを育成してきた。また、「教えて！琴似小学校」などを活用し、学習ルールや校内での約束ごとの共通理解を引き続き図る。	A	A
③学校は、計画を立てて学ぶ力や自分の学びのよさを振り返る力を育むことができたか。	B	昨年度同様、家庭学習に自主的に取り組めるよう指導を継続しているが、保護者からの肯定的な回答は78.1%と、他項目に比べると低い結果であった。日常の授業においても、「問題意識を生む手立て」を重視し、児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育んでいく。また、キャリアパスポートを中心に、児童が自分の学習を振り返り、自らの成長を実感できる取組を推進する。	A	A
④学校は、一人一台端末を効果的に活用することができたか。	A	日常的に活用を進め、児童の活用能力向上や学習理解の助けとすることができた。教職員の校内研修を企画したり、ICT活用を主眼とした公開授業を実施したりすることで、より効果的な活用方法を教職員内で共有できた。次年度は、学年別スキル習得一覧表を継続的に活用するとともに、家庭での使用方法についての見直し・改善を進めていく。また、全学年で実施した情報モラルに関わる出前授業は、次年度も引き続き実施予定である。	A	A
⑤学校は、専科指導・交換授業などを推進し、指導体制を充実させることができたか。	A	理科と外国語における専科指導を行い、的確な見取りと専門的な指導による「分かる・できる・楽しい」授業づくりを推進することができた。学級担任と専科教諭との連携を密にとり、計画的・効果的な指導を行うことができた。来年度は、学年・ブロック内教科担任制指導をさらに推進していく。	A	A

豊かな心の育成

自分を大切にする心、他者を思いやる心、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心の育成

重点目標具現化推進項目 (評価内容)	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
⑥学校は、道徳教育全体計画を基盤とした教育活動を推進することができたか。	B	体育発表会・学習発表会などの行事や集会活動、異学年交流を通して、他者を思いやる心を育む場を年間通して設定することで、全校児童が互いに頑張りを認め合ったり達成感を味わったりする経験を積むことができた。次年度は、日常的な道徳の授業においても各行事・活動と関連付けることで、より一層、豊かな心の育成が図れるよう推進していく。	A	A
⑦学校は、自分や他者のよさ・多様性を認め、互いに尊重し合う態度を育む機会をつくることができたか。	A	教職員による玄関先での挨拶の取組、児童会書記局を中心とした児童による挨拶活動を今年度も継続して行うことができた。次年度も、挨拶に関わる指導や活動を継続していくとともに、行事や学習活動を通して、他学年と交流できる機会を創出し、互いに尊重し合う琴似小のよさを育てていく。また、学びの支援全体会や各種研修会を行うことで、支援を必要とする児童について学び、理解を深める場を設けた。次年度も教職員が学び続けるとともに、通常学級と特別支援学級との双方向的な児童の交流活動を計画し、多様性を理解し合う心情を計画的に育てていく。	A	A
⑧学校は、いじめ防止、早期発見、対応に全教職員で取り組むことができたか。	A	いじめ定例会議を毎月開催し、児童の情報共有と未然防止に努めた。また、児童会書記局・代表委員会が中心となって、いじめ防止に関する校内放送での呼び掛け、「やさしさ・すてきはっけんカード」の取組を行うなど、児童自らがいじめ防止について考え話し合う機会を設けた。次年度も、「いじめを許さない」学校風土づくりに継続的に取り組んでいく。	A	A
⑨学校は、不登校児童への個に応じた支援と学びの保障の場をつくることができたか。	B	不登校・別室登校児童について、チームで連携を図ることを大切にし、支援体制を整えている。特に「リソースルーム」は教室に入れない児童の居場所として活用を始めることができた。次年度は、さらに児童の学びの場として活用できるよう整備を進めていく。また、支援が必要な児童について、個別の教育支援計画を作成し、目標や手立てなどを共有した。次年度も、教職員がチームとして対応できるよう、整備・研修を計画している。	A	A
⑩学校は、子どもの考えや意見、発想を生かした自治的な活動を設定することができたか。	A	委員会活動において、児童のアイデアを基に活動内容を企画・実施することができた。児童の発想を生かした取組が見られ、自主性や主体性の伸長につながっている。また、クラブ活動や各学級の係活動においても、児童が役割や活動内容を工夫しながら取り組む姿が見られ、自治的な活動の充実が図られている。 学習発表会や体育発表会といった行事の取組においても、さらに自治的な活動を取り入れていけるよう計画をしていく。	A	A
⑪学校は、安全教育や防災教育を実施・徹底することができたか。	A	日常の学級指導や道徳の授業、全校での避難訓練などを通して、児童が日常的に安全への意識をもつことが出来るようにした。次年度は、グラウンドへの避難ができない実情に合わせた校外への避難訓練や、身支度を整えた上での避難となる冬季の訓練を計画し、より災害を具体化に想定した形へと改善していく。	A	A

健やかな体の育成 自らの心身の健康に関心を持ち、正しい知識と、体力向上を目指す様々な場の設定

重点目標具現化推進項目 (評価内容)	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
⑫学校は、体育科の授業の充実を図ることができたか。	B	「空間・仲間・時間」を意識・工夫し、日常の授業の充実を図っている。鉄棒・マット・跳び箱週間を設けて環境を整えることで、児童の運動時間を確保することにつながった。 体育発表会は学年を入れ替えることで、児童のがんばりを保護者・地域の方々に見ていただくことができた。水泳学習は近隣スポーツクラブ、スキー学習は新たに近隣公園での実施など、校外での学習を設定することで、活動の充実を図った。	B	A
⑬学校は、年間を通して日常的に運動に親しむ環境づくりを行うことができたか。	B	校舎改築によりグラウンドが使用できなくなった影響から、教職員・保護者ともに肯定的な回答が低めの結果となった。そのような環境でも、ステージ上に運動できる場を設定した「琴似サーキット」の取組や省スペースで運動量を確保できる「なわとび週間」の設定など、新しい取組をスタートすることができた。次年度は、さらに児童が運動に親しむことができる環境づくりに注力する。	B	A
⑭学校は、自分の体力の伸びや運動量が分かる取組を工夫することができたか。	B	体育科の学習では「がんばりカード」に運動のポイントや振り返りを記入したり、児童委員会主催で「体力テスト体験会」を開催したりすることで、自分の体力や運動能力の伸びを実感する機会を日常的に設けた。次年度も、児童が自分の健康状態や生活習慣について考えたり目標をもったりする機会をつくっていく。	B	A
⑮学校は、食に関する指導や性に関する指導を行い、命や体を大切に子どもを育てることができたか。	A	栄養教諭や養護教諭と連携しながら、全学年で食育や性に関する指導を計画的に行った。次年度以降も、発達段階に合わせた内容を計画・実践していく。	A	A

信頼される学校の創造 理解を深め、学校・保護者・地域が協働的に子どもたちの健やかな育成を目指すための信頼関係の確立

重点目標具現化推進項目 (評価内容)	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
⑯安全・安心な学校づくりを行うことができたか。	A	個のよさを大切にしたい、寄り添い、やわらかくあたたかな心通う指導を心掛け、子どもの「心」と「命」を守る学校づくりを継続して推進する。教職員による玄関先での朝の見守りを継続するとともに、教室でも児童を迎えられるよう分担を改善する。	A	A
⑰学校は、保護者・地域・外部機関等の教育力を積極的に活用することができたか。	A	「琴似で学ぶ」地域を生かした教材化と年間計画を編成し、生活科や総合的な学習の時間を始め、各教科においても、そろばん学習・スキー学習等、各学年で有意義な学習を実施することができた。また、行事や参観授業、懇談会などの機会や、毎日のホームページの更新などにより、学校の教育活動を積極的に発信することができた。次年度も、地域の教育力を積極的に活用していく。	B	B
⑱学校は、働き方改革・職場環境の改善を図ることができたか。	B	評価研修日の設定により、放課後の業務時間を確保することができた。また、会議の開始・終了時間を設定することで、効率的に業務を進めることができるようになってきた。次年度以降も、業務の見直しや個人目標の設定など、教職員の意識改革を引き続き推進していく。	A	B

学校関係者評価委員によるご意見

- なかなか結果や成果が分からない課題が多い中で、常に改善を考えて取り組んでいることが評価できます。保護者や教職員、子供達にそれぞれ様々な考え方がある中で、最適解を考えていくことは大変な作業だと思います。それぞれが健康に充実した生活ができるようにこれからも取り組んでほしいです。
- 多様性の尊重が求められる社会の中で、ひとりひとりの生徒と保護者への対応は本当に大変だと思いますが、日頃より子どもたちのために尽力され、様々な活動を行っていると感じます。人と人との摩擦は情報を共有し、理解し合えることが、誤解を生まず、事がスムーズに進む早道だと思います。PTAの活動が縮小され、学校と保護者間だけではなく、保護者同士の交流も減っているため、今後も行事を通じてコミュニケーションがとれる場が守られていくことを願っています。子どもたちのために一生懸命考えて下さる先生方の姿をより多くの方に見て頂きたいです。今後も応援しています。いつもありがとうございます。
- ①個に応じた「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行うことができたか。
「個に応じた授業ができたか」ということ自体が、不可能な項目であると考えます。一人一人に応じて「分かる・できる・楽しい」授業ができるということ自体が無理な設定で、子に応じた「分かる・できる・楽しい」授業となるように最善の努力をしたかどうかという評価項目でよいと思う。
- ⑫～⑭ なぜ評価がBなのか。今年のような状況で学校は最善の努力をしたではないですか！
- たくさんの項目アンケート等、多くの時間を使ってする意味、働き方をいつまでも見直すことができないのではないのでしょうか？教育委員会はどう考えているのですか？先生方はどう考えているのですか？学校評議員必要と思いますか？私たちにも数時間使って頂いています。この時間を子どもたちの為に使って頂いた方が良いかと思います。